

親水と農体験が盛り上げる地域意識

庄内平野の中央部に位置する藤島町では、「水土里ネットいなば」を中心に、大きく2つの資源保全活動が行われています。

■地元住民から出た「大堰復活」の声

藤島町には、町の真ん中を長さ1.5キロにわたる石積みの用水路「大堰」が南北に流れます。

昔から農業・生活用水として人々に親しまれてきたこの大堰は、最近の土地改良によって新たな用水路「東2号」ができたことで水の流れがなくなり、その姿は大きく変わってしまいました。

そこで水土里ネットいなばでは、非農家も含めた地域住民の参加するワークショップやイベントなどを企画し、みんなの手で昔の大堰を取り戻そうと呼びかけました。その中で大堰を取り巻く水辺環境を見直した時、遊び場として子供たちを迎え、ときには水の怖さを教わりながら他世代との交流も体験する、そんな用水としての機能を越えた、水路のもつ教育力こそが必要だと改めて感じたのです。そして地域住民による「大堰復活」に向けての活動が始まりました。



毎年恒例となった子供たちによる「大堰クリーン作戦」では、水路から空き缶やペットボトルなどのごみを拾い集めるだけでなく、大堰の水質調査も実施しています。汚染度を表すCODなどを測定して近隣河川と比較することで、大堰の水辺環境の保全を全員で意識するよう心がけています。

その効果あってか最近では、夏にホタルの飛び交う姿があちこちで見られるそうです。

また平成18年3月には、大堰沿いに新たな親水空間である「大堰ポケットパーク」が完成する予定。広さ約500m²の休耕田に掘られた池は、子供も大人も自由に水と親しめる憩いの場所として期待されています。

このポケットパークへの水の引き入れや大堰への魚の放流は、藤島小の児童の手によって行われ、小さい頃から慣れ親しんだ大堰を大切にすることを育てます。



こうしてみんなが親しめる大堰が戻りつつある中、地域住民を中心に集まった人々により、ごく自然に「いなば愛好会」が結成されました。よりきれいな町づくりを目指して始まったこのボランティア活動は、町に増える花壇の数に比例します。大堰への思いでつながるこの会が、大堰で育った子供たちへと受け継がれ、これからの大堰を守っていってくれることでしょう。

親水と農体験が盛り上げる地域意識

■都市部の人々が参加する「農村農業体験」

都市部の人々にも農村環境を理解してもらいたいと始まった農業体験イベントには、藤島町から車で約20分ほどの鶴岡市街地にある烏居町地区が参加し、一年を通して計5回の農作業を行っています。

水土里ネットいなばでは、これをただの農業体験にするのではなく、そば打ちやお菓子づくりなどの楽しさを盛り込んだ企画にしています。「まずは楽しんでもらうこと」が大切だと考えているからです。



非農家が多い烏居町地区では農業にふれる機会がないため、家族揃っての参加が多く評判も上々です。というのも、楽しみながら農業の大変さと作物を育て収穫する喜びを味わえたこと。これはもちろんですが、子供も親も高齢者の方もひとつになった、イベントを通して生まれるコミュニケーションの力にとっても驚いているようです。

町内会での人とのむすびつきも強くなり、交流の輪は広がっています。この楽しさから始まる都市部の人々の意識は、やがて農業や農村環境、水路に対する理解へとつながっていくことでしょう。

このモデル地区「烏居町」での農業体験は今年3シーズン目を迎えますが、今後このような地区が第2、第3の烏居町として成長し、将来的には農家の高齢化が進んだ農地を開放して、市民農園に活用するなどもっと様々な活動が行えれば、そんな理想もあるようです。

このように、地域住民の思いから始まった様々な試みが、子供たちに伝わり、都市の人々に伝わり、みんなの意識に影響を与えていくことで、地域全体の資源保全活動がとても良い方向に向かっていきます。この意識を受け継いでいくことが、永続的な資源保全につながるのではないのでしょうか。

藤島町

イメージPhoto

■地区概要：

庄内平野の中央部に位置し、市街地の鶴岡市と酒田市を結んでいる。上流地区では東は東2号幹線用水路と藤島川、西は赤川と黒瀬川に挟まれた細長い帯状をなし、南の櫛引町より北の藤島町に至る総延長は約14km。

MOVIE：インタビュー映像



大堰の昔から今までの移り変わりをおしえてください
中町・元町内会長／成澤さん

Win
3.0MBMac
3.0MB

農業体験活動をして、都市部の子供たちに変化はありましたか
鶴岡市・烏居町北町内会／高橋さん

Win
3.0MBMac
3.0MB